

令和7年度 小野小学校 学校評価公表資料

達成度評価： A=目標達成 B=目標に近づいた C=まだ残念な状況 D=次年度の大きな課題

達成率=評価4と3の合計の割合(%) 網掛けは相対的に低い項目

評価項目	番号	評価内容	児童達成値	保護者達成値	自己評価達成値	達成度評価
（支え合う子ども） （徳育）	①	子供たちとの対話を大切に、温もりや居場所のある学級づくり、自己肯定感を高める言葉かけや関わりを継続している。	79%	86%	88%	A
	②	ふわり言葉や「くん-さん-ちゃん付けの呼び名」などの定着に努め、子供同士の関係が和やかになる指導を継続している。	65%	83%	89%	
	③	人の痛みや喜びに共感する心、人の厚意に感謝する心など、「他者との共生」を意識した指導を継続している。	82%		88%	
	④	あいさつ・返事、素直な「ありがとう・ごめんなさい」、時間や約束を守るなど、人としてのマナーの指導を継続している。	82%	86%	92%	
	⑤	後片付け・無言そうじ・トイレスリッパ・廊下歩行など、公共のルールの意識を高める指導を継続している。			87%	
（学び合う子ども） （知育）	①	めあてとまとめを大事にして書く活動を重視し、端末やデジタル教科書を積極活用するなど、「主体的な学び」を意識した授業づくりを進めている。	81%	80%	84%	B
	②	ペアやグループなど、学年に応じて協働的な交流活動を取り入れた授業を行っている。	85%		80%	
	③	遅れがちの子、早く終わってしまう子など、個別の支援や手立てを要する子への対応を行っている。	80%	74%	80%	
	④	「よい子の筆箱」などの学習準備、授業の終始、姿勢、聞く話すの約束などの学習規律について定着のための手立てを継続している。	76%	77%	82%	
	⑤	「家庭学習時間＝学年×15分」を共通理解として、「自学」「家読」を含めた家庭学習が習慣づくように、発達段階に応じた指導や励ましを継続している。	72%		75%	
（鍛え合う子ども） （体育）	①	感染症予防（うがい・手洗い・換気）の指導を継続している。	89%	84%	84%	B
	②	登下校の交通安全や校内事故防止など、安全意識を高める指導を継続している。	91%		82%	
	③	望ましい生活習慣（早寝早起き朝ご飯・洗顔と歯磨き・メディアコントロール等）の指導を継続している。	73%	78%	80%	
	④	体力づくりの活動（体育・行事など）や外遊びについて、励ましや指導を継続している。	80%		79%	
	⑤	給食指導を中心に、望ましい食習慣をつくる食育指導を継続している。	79%	81%	84%	
と家庭や地域連携	①	連絡帳・電話連絡・保護者面談・家庭訪問などにより、家庭との相互理解・連携を図っている。保護者もそう感じている。		84%	87%	B
	②	各種たよりや学年・学級メールなどで、学習や諸活動の様子について保護者に発信、情報提供することができている。保護者もそう感じている。			81%	
	③	家庭学習・家庭読書・メディアコントロールなどのよりよい習慣づくりについて、継続的に保護者に働きかけることができている。保護者も共に取り組んでいる。		80%	79%	
	④	育友会の役割や地域との関わり大切さを認識し、可能な範囲での連携と協力に努めている。保護者もそう認めている。			77%	
学校運営	①	学校教育目標、めざす児童像や授業像、重点努力事項を理解し、それを受け止めた学級経営や教科指導、分掌業務に取り組んでいる。そのことが保護者にも伝わっている。		80%	88%	A
	②	分掌部会で複数人の知恵を出し合うなど、チームの連携、組織力の向上を意識して業務に取り組んでいる。協力的な組織であることが保護者にも伝わっている。		81%	89%	
	③	小野地区の特性理解に努め、地区のよさ・特色・人材を生かした教育活動を、可能な範囲で積極的に取り入れている。		83%	78%	
	④	清掃指導の充実や整理整頓、掲示物の整備や工夫、学習園やブランターの活用など、教育の場としての環境整備に取り組んでいる。そのことが保護者にも伝わっている。		82%	81%	
チーム小野	①	「どの子ども愛し、どの子ども伸ばす」という教育愛と使命感を持って職務に努めている。			89%	A
	②	「同僚とともに研鑽に励む」「互いに学ぶ」意識で研修に取り組み、授業に生かそうとしている。			88%	
	③	常に人に見られていることを意識して言動に留意し、不祥事とは無縁の「信頼される教師」であるように努めている。			88%	
	④	管理職も含めた職員間の「報-連-相」を意識した連携協働と、一体感と同僚性が感じられる職員集団づくりに、自分自身も意識して参画している。			88%	
その他		児童「楽しい」・保護者「通わせたい」・職員「働きやすい・働きがい」の満足度	85%	84%	91%	A

学校自己評価考察（成果と課題）
<p>○児童・保護者・職員のアンケート結果は、昨年度と同様の数値で全体としておおむね良好な数値といえる。</p> <p>○職員の自己評価から、職員の共通理解のもと、経営方針に則った学校運営が推進されていることがうかがえる。</p> <p>○国語科学習の研究の推進により、児童の着実に学ぶ力がついてきていることを実感する。</p> <p>○「チーム小野小」の全ての小項目で、自己評価が高評価になっていることは、一丸となって教育の向上に向けて取り組む姿勢が表れていることを感じる。</p> <p>○職員の働きやすさ・働きがいの満足度は、本校の働き方改革・働きがい改革がよい方向に進んでいることを示している。</p> <p>○児童は、高い割合で「先生はきちんとほめ、叱るときはしかってくれる」という思いをもっている。</p> <p>●学習の準備、家庭学習の取組については80%の満足度を目指していく必要がある。</p> <p>●日々、授業改善の努力を継続しているが、個人の差に応じた授業のあり方について保護者からの満足を得るまでには至っていない。</p>
次年度への改善策
<p>□心豊かに人を思いやる気持ちをもった小野の子どもを今後とも大切に育てていきたい。</p> <p>□国語の読み取る力を付けることを柱に授業づくりの研究を行っていく。</p> <p>□学校のスタンダードを保護者とも共有し、家庭学習の定着を図る。さらに、個に応じた学習あり方についての研究も継続して行っていく。</p> <p>□家庭でのメディアコントロール、学年×15分の家庭学習時間の確保については、今後も育友会・保護者との連携を図り、一層積極的な指導に当たっていく。また、研修の場を設け、メディア利用について親子で話し合うことやルール作りなどについて進めていく。</p> <p>□体力づくりについて、全校での取組や体育の時間での工夫を通して、体力の数値的向上を図るための働きかけを行う。</p>

学校関係者評価委員の意見
<p>□昨今のSNSのトラブルの話題からメディア利用に関する心配が絶えない。小中連携のもと、育友会の協力を得ながら保護者に学んでもらう場が必要ではないか。</p> <p>□外国のようにSNS使用については、年齢制限を設けるべきではないかを感じる。</p> <p>□通学路でよく挨拶してくれる子どもたちに元気をもらっている。</p> <p>□令和8年度の入学児童数からすると、全校児童数が微減となる見通し。徐々に町の様子も変わっていくと思われる。</p> <p>□町の様子、世帯の様子が変わってきて、子ども会の案内を伝えるにもどこに子どもが住んでいるのか把握できない。子ども会の加入率が下がり、運営のあり方を工夫しなければならないようだ。</p> <p>□親同士が話す機会自体が減っている。運動会でも接することが少なくなった。5年生のもちつきは、親同士でコミュニケーションを図るよい場となっていた。フルタイムの働き方などにより、顔を合わせる機会も限られているのであろうか。</p> <p>□次年度からの小中合同学校運営協議会をうまく機能させて保護者、地域との連携を強化し、子どもを見守ることを継続して行ってほしい。</p>

関係者評価を受けて
<p>□メディア利用についての保護者研修会を設けて小中合同で取り組んでいくことを具体化していく。</p> <p>□挨拶については、個人差があるとの声が保護者からも聞かれる。明るく、元気なあいさつが自分からできるように学校、家庭で連携して取り組んでいきたい。</p> <p>□店舗の進出に伴って町の様子にも変化が進んでいく。子どもの生活にも気を配り、事故や非行などに巻き込まれないよう指導を継続していく。</p> <p>□評価の数値が75%を下回る項目については、特に意識した指導を重ねていく。</p> <p>□次年度からの小中合同学校運営協議会の発足を6月あたりにできないかを検討し準備していく。</p>